

## 聖霊シリーズ「勧めの賜物」

### 1A 勧めの賜物とは

1B 知っていることを行なわせる言葉

2B 賜物の有る無し

### 2A 聖書における勧め

1B 旧約聖書

2B 新約聖書

### 3A 賜物の運用

1B 今日における賜物

2B 対になって用いられる賜物

3B 賜物が用いられる目的

## 本文

聖霊シリーズですが、今晚は「勧めの賜物」を学びます。ローマ 12 章 7-8 節を読みます。「**奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。**」

### 1A 勧めの賜物とは

1B 知っていることを行なわせる言葉

勧めの賜物について、とても興味深い話があります。宗教改革に起爆剤を与えた、マルチン・ルターですが、彼はしばしば落ち込むことが多く、大したことはないことでも酷く不快になることもあったそうです。何日間も誰とも話そうとせず、話そうとしてくる人には食ってかかりました。彼の奥さんが、嫌気がさしたそうです。全身黒い服を着て、夫の書斎のドアをノックして、彼の机から彼を起こしました。彼女の黒い服装にルターは驚き、「なぜお前はそんな服を着ているのか？」と尋ねました。彼女は答えました、「あなたがまるで、神がお亡くなりになったように行動しているから、私は神さまのお葬式の服を着ようと思ったのよ。」そしてすぐに部屋を出て行きました。ルターは一撃を食らったようになり、その意味を理解し、彼の機嫌は急速に回復しました。落胆して、敗北感に浸っている人に対して、勧める人は、「主は死んでおられない。神はこの起こっていることをご存知だ。主はすべてを動かしておられる。主に任せて、主に信頼しなさい。」それで、次に行動に移す勇気を得ます。

私たちは、知っているのにそれを実際に行わないという問題をもっています。御言葉は聞いていても、それを実践していません(ヤコブ 1:22)。そこで励ましがが必要です。行動に移させる勢いを与えなければいけないのです。

例えば祈りについて、どうでしょうか？私たちはいつも、もっと祈るべきであることを分かっています。祈りについてのセミナーをするよりも、祈りましょうと祈ります。今、ある人々が、「祈りしかできない、のではなく、祈りこそ」という言葉を使っていますが、祈りは最後の頼み綱ではなく、最初に頼るべきものです。けれども、煩雑な生活の中でどうしても、自分の力や知恵で解決策を見つけようします。そこに、勧めの賜物のある人がいるとします。「このことについて、祈った？」はっ、としますね。それで「いっしょに祈ろう。このことを神に願ひましょう。」と勧めてくれるのです。

私たちは今、箴言を学んでいます、そこに怠け者の姿が数多く出てきますね。しなければいけないことを、先延ばしにするのです。「しばらく眠り、しばらくまどろみ、しばらく手をこまねいて、また休む。(箴言 25:33)」このように後回しにしている時に、「ほら、今しなさい！」と言ってくれる人が必要です。これが勧める賜物であり、するべきだと知っている者を行なうように促すことのできる力です。

## 2B 賜物の有る無し

これは確かに、上からの御霊による賜物です。祈りについて、「祈ろう」と勧めてくれる人が、御霊の賜物によって語る時に、私たちは立ち上がり、あるいは跪いて祈ることができます。けれども、場合によって人を怒らせてしまうことがあります。「なんで、そんなことを言うのか？あなた自身がそれをすればいいではないか。」という反発をもたらすことがあるでしょう。言葉を発しても、人を怒らせ、元気づけないこともあるのです。けれども、勧めの賜物においては、確かにすべきことを行なう勢いを与えてくれるのです。

勧めの賜物によって、私たちは主との歩みが豊かにされます。「1テサロニケ 4:1 終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。」神との歩みについて学んだことが、豊かにされます。

## 2A 聖書における勧め

### 1B 旧約聖書

聖書の中における勧めの賜物を見ていきたいと思います。旧約聖書においては、預言者は全てがこの賜物を持っていました。偶像を捨てて、生ける神に立ち返るように勧めました。敵に包囲されている時に、主に拠り頼むことを勧めました。主が勝利を与えられることを信じるように勧めました。ダビデは詩篇の中で、他人に勧めただけでなく、意気消沈している自分の魂に勧めを与えています。「詩篇 42:5 わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。」そして、ソロモンの箴言はまさに、勧めの言葉であります。旧約聖書は勧めの言葉で満ちています。

## 2B 新約聖書

新約聖書においては、勧めの賜物を持った人は、何といてもヤコブです。この手紙を読めば、勧めが一体なんであるかをしることでしょう。「ヤコブ 2:18 あなたは信仰を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」信じていると言っている、行ないを伴っていないという問題に対して、心から信じているかどうか、自分の心と魂を砕いて聞いているかどうか。実践しているかいないかは、その信仰も持ち方に関わりますが、そこで信仰を実践にまで深めるのに役立つのが、勧めの言葉なのです。

そして使徒ペテロが、勧めの賜物を用いている部分を読みたいと思います。「1ペテロ 5:1-9 そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けるのです。同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高めてくださるためです。あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。」数多くの勧めがありますね。初めに、長老また牧者に対しての勧めがあります。そして若者に対して勧め、それから思い煩いについての勧め、悪魔の仕業に対する勧めをしています。

使徒パウロも勧めの賜物を用いています。「ローマ 12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」私たちの生活そのものを、礼拝の捧げ物としなさいという勧めです。テサロニケ人への手紙は、短い勧めを数多くしており、興味深いです。「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。御霊を消してはなりません。預言をないがしろにしてはいけません。すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。悪はどんな悪でも避けなさい。(1テサロニケ 5:14-22)」テサロニケ第二の手紙でも、「3:12 こういう人

たちには、主イエス・キリストによって、命じ、また勧めます。静かに仕事をし、自分で得たパンを食べなさい。」テモテへの手紙第一 2 章 1-2 節にも「勧めます」という言葉を使っています。「1テモテ 2:1-2 そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。」

ユダも手紙の中で勧めます。「3 愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。」

### **3A 賜物の運用**

#### **1B 今日における賜物**

今日、どのように勧めの賜物が用いられているでしょうか？皆さんにも、そのような証しを後で聞けたらと思いますが、私は、霊的な故郷であるカルバリーチャペルの兄弟姉妹からの励ましは、いつも強められます。普段は、大まかな内容の祈りの課題をメールで送っています。けれども、自分がとても切羽詰っているとき、意気消沈しそうでこれは駄目だと思った時、これは自分だけに閉じ込めておかないで、信頼する兄弟姉妹に知らせるべきだと思う時は、祈りの要請を送ります。そうすると、勧める賜物に満ちた返信が、数多く返ってきます。

「私たちは祈っています。忍耐してください、主がご計画を持っておられると信じています。」「祈っています。私は、あまりにもたくさん牧師としてこの種の霊的戦いを通してきました。主に拠り頼みましょう。これは、主の教会であり、主が御座におられます。」

勧めだけでなく、慰めの言葉もあります。「私は全面的にあなたの側にいます、祈っています。敵の策略がどのようなものであっても、私たちは勝利します。ハレルヤ！」「これは実に、がっかりすることだ。」がっかりすることだ、と言ってくれることで、逆に意気消沈から立ち上がることができる、励まされるというのは不思議なことです。勧めではなく慰めという形で励ましを与える賜物は、「憐れみを示す賜物」というところで次の次でもっと詳しく学びます。

私がスクール・オブ・ミニストリーで学んでいた頃、牧者チャック・スミスの片腕となっていた副牧師にロメインという人がいました。私は、彼が正直、とても怖かったです。チャックは、教える賜物のある人ですが、ロメインは勧めの賜物がありました。だから、私が教会の事務所で、ぼおっとしていた時に、後でものすごい辛辣な言葉で叱責をしていたのを覚えています。けれども、彼は愛のある人です。そうした言葉を聞く時に、自分の怠け心を示されて痛いのですが、その痛さはそのまま癒しになります。健全な心、魂を主にあって保つときに、私たちの心には平安があるからです。

彼の勧めは、とても力強いものでした。例えば、彼はしばしばこんな感じで話します。「あなたの

問題のことで、私のところに泣きながら来ないでください。主を信頼しましょう！私に助けを求めないでください。私にはあなたを助けることはできませんが、主が助けてくださいます。」他の御霊の賜物と同じように、同じ賜物でも働きが異なります。多様性があります。いろいろな形で、主は勧めの賜物をそれぞれに与えてくださいます。

### 2B 対になって用いられる賜物

ところで、勧めの賜物が用いられる時、預言が対になって用いられることがしばしばあります。「1コリント 14:3 ところが預言する者は、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。」とある通りです。そして、「使徒 15:32 ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、また力づけた。」先ほどの励ましの返信は、自分の状況にぴったりと合った、時宜になかった言葉であり、それは主がその時に即興的に語られる預言の言葉です。

そして教える時、健全な教えを伝える時に、しばしば用いられます。「私が行くまで、聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい。(1テモテ 4:13)」とパウロはテモテに命じました。「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。(2テモテ 4:2)」そしてもう一人の牧会者テスにも、こう命じました。「テス 1:9 教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。それは健全な教えをもって励ましたり、反対する人たちを正したりすることができるためです。」

健全な教えの時に、なぜ励ましと勧めが強調されているのでしょうか？それは、正しくあろうとする完璧主義、律法主義がはびこるからです。正しくあろうとすることによって、イエス様との生きた関係、そこにある命と喜びが失われます。そして、何が正しいのかという正統性の議論に発展します。正しくあろうとすることによって、神と私たちとの関係が濁ってしまいます。聞いている教えと言うのは、それが実践されない限り、役に立ちません。神が全能だと知るだけでは十分ではなく、全能の神に拠り頼むという実践と経験が必要なのです。そのことによって初めて、御言葉の約束を体験でき、私たちの霊が喜びと平安に満たされるのです。

### 3B 賜物が用いられる目的

使徒たちは、主の内に留まっているように勧めました。「彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主にとどまっているようにと励ました。(使徒 11:23)」私たちは、押し流れてしまうという傾向があります。ヘブル書に、「ですから、私たちは聞いたことを、ますますしっかり心に留めて、押し流されないようにしなければなりません。(2:1)」という警告があります。問題に圧倒される時に、主がおられるということ、主に救いがあるということを見失ってしまいます。問題にではなく、自分自身にではなく、その苦しみや困難にではなく、主ご自身に目を留めるように主は促しておられます。このことによって、私たちの見ている目は神に向けられて、それで私たちが見ているものを正してくださいます。

私たちの目を主から逸らさせる誘惑が数多くある中で、私たちに必要なのがこの勧めの賜物です。主にしっかりと留まってくることができるように、知っていること、聞いていることを実践するように促す言葉が必要です。「ヘブル 10:23-25 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」主がこのような時にもそこにおられる、神が王座に着いておられることを励ましによって知るのです。

そして、この賜物が用いられる時に、世に対して証しができます。確かに、この罪多き、暗き世に、キリスト者が光輝いていることを、世の人は知ることになります。教会によって知ることができます。